

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2013年7月4日

[テーマ] 世界遺産登録 準備を万全に

先日、ユネスコ（国連教育・科学・文化機関）の世界遺産委員会が、富士山の世界文化遺産への登録を正式決定した。国内の世界文化遺産としては13件目、自然遺産を含めると17件目になる。富士山は、当初、自然遺産登録の推薦候補として検討されたが、ゴルフ場開発や登山者によるゴミ問題を抱えていたことから断念され、文化遺産登録の推薦候補に見直された。結果的には、こうした対応が奏功したことになる。

当県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、富士山と同様、世界文化遺産の登録を目指している。2014年の世界遺産委員会で審議される見込みであるが、今回の富士山の登録決定をめぐる動きをみて、参考になる点が少なくないと思われる。

まず、文化遺産といえども、経済振興と環境保全という利害の相反する課題に取り組まなければならないことだ。世界遺産になると、国内外からの観光客が増えるなど経済効果が見込まれるが、その一方で、環境保全への配慮が求められる。富士山は、登山者の増加などが見込まれるだけに、静岡県や山梨県ではゴミ問題などへの対応が急務のようだ。

ゴミ対策は、当県でも重要な課題である。当県の1人当たりゴミ排出量は、全国ワースト2位であるほか、リサイクル率も14.9%と全国平均（20.4%）を大きく下回り、全国ワースト8位である。県ではゴミ減量化やリサイクル率向上のための目標値を設定している。世界遺産登録に向けた取り組みと合わせて、具体的な対応を進めることが望まれる。

◆ 富岡製糸場の入場者数 (万人)

年 度	2007	08	09	10	11	12
人 数	24.9	26.5	22.3	20.6	23.1	28.7

富岡市富岡製糸場課調べ

◆ 群馬県のゴミ排出量 (1人1日当たり)

	排出量	全国順位
群馬県	1,076 グラム	ワースト2位
静岡県	968 グラム	ワースト23位
山梨県	1,003 グラム	ワースト12位

環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」(2011年度) から

また、構成資産の関連付けを明確にすることも必要だろう。ユネスコの諮問機関イコモス（国際記念物遺跡会議）は、富士山から45キロメートル離れた三保松原を除外すべきとの勧告を行ったが、ユネスコの世界遺産委員会は「文化的なつながりが深い」との理由から、三保松原を含む構成資産全ての登録を認めた。かつて三保松原を訪れた際、海岸越しに眺めた雄大な富士山は松林と一体となって自然の芸術そのものだったが、ユネスコも現地を訪れて同様の印象をもったのではないだろうか。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産は、養蚕・製糸関係施設という点では共通だが、異なる市町に所在するうえ、施設相互の関連性が必ずしも明確ではないように思われる。イコモスの現地調査隊には、群馬の絹産業の歴史のなかで各施設が果たした役割とつながりを、わかりやすく解説する工夫が必要だろう。

（ 日本銀行前橋支店長
相良 雅幸 ）